

平成25年度学校評価結果及び学校関係者評価結果

ア 自己評価結果

| 重点目標 | | 生徒が自ら進んで専門分野（各教科・科目）に精通するように導くとともに、良識ある社会人としてのモラルを身に付け、実践できるように育成する。 | |
|------------|---|---|--|
| 項目 (担当) | 重点目標 | 具体的方策 | 評価結果と課題 |
| 教務 | SSHの一層の充実と共に、新教育課程の趣旨の周知を図り、より効果的な授業運営を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業研修週間を設定し、教員間の授業見学の機会をつくり、教科会で授業改善検討の場を設ける。 SSHアラカルトを中心に研究計画の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 全校的な定着に向けて課題もあるが、この期間に教科内や教科間の授業見学も行われた。授業改善に向けた取り組みの一步として定着に向け継続したい。 考査・学級編成・教育実習等の業務において見直しや改善を行うことができた。 |
| 総務 | 昨年度見直され、精選されたPTA活動を実践していく。 | PTA役員と協力して、改編、効率化された組織を活用していく。 | 改編された役員会、実行委員会の役割、審議の流れが定着してきた。軌道に乗り始めた活動の問題点を少しずつ解決しながら、よりよいあり方を探っていきたい。 |
| 生徒指導 | 良識ある社会人としてのモラルを身につけ、実践できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 指導基準の共通理解を図る。 遅刻指導・身だしなみ指導の強化を図り、落ち着いた学習環境を作り上げる。 | 全体的には規範意識は高まった。身だしなみについては、継続的に指導していきたい。 |
| 進路 | 3年間を見通した進路計画を策定し、それにしたがって進路指導を展開する。 | <ul style="list-style-type: none"> 低学年において生徒が自ら進路を考える契機となる情報を提供する。 実力考査の結果の活用を、より充実したものにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 1、2年生に対する『進路通信』の発行、「東大ガイダンス」「東大ツアー」の企画等、情報提供を図った。今後も時宜を得た内容のある情報提供をしていきたい。 実力考査成績一覧と進路希望調査の結果を結合し、学年会に対して情報提供を行った。今後更に実力考査の有効活用を検討していきたい。 |
| 保健 | 「自らの気づき」による清掃活動の実践 | 感謝・奉仕の心を育てる様々な手立てを1年を通して啓発する。 | 生徒の振り返りを重視し、今まで目を向けていなかったことに目を向けさせることができた。さらには、何かに「気持ちを向ける」ための活動を具現化していきたい。 |
| 生徒会 | 生徒が主体的に活動できる企画・運営を行う。 | 生徒会執行部が主体的かつ積極的な活動を行うために、適切に助言し、充実感のある取組みにする。 | 明和祭、クラスマッチなど充実感のある取組となったが、生徒間の引継ぎや、各委員会間の連携などがうまく行われていないこともあった。生徒会五役を中心として、これらを改善していきたい。 |
| 図書 | 貸出冊数の増加をめざす。 | 新規購入本を含む蔵書の紹介を積極的に行う。 | 昨年度の貸出冊数は1,974冊、本年度は3,065冊と大幅に増加した。来年度は7限授業が3日になり放課後の利用時間が制限されるが、授業での活用等、図書館利用拡大の工夫をしていきたい。 |
| 教育情報 | 校内ネットワークの拡張と活用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 教員の常駐する部屋で、アイシステムができるようにする。 校務支援システムを一部導入し、活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> 本年度は西館にネットワークを拡張することができた。次年度に全ての部屋で利用できるようにしたい。 校務支援システムで1年生の指導要録作成ができた。次年度は調査書作成に活用し、校務の効率化を図りたい。 |
| 教育相談 | 相談活動に関する研究と相談の手立ての具現化を図る。 | 心身の健康にかかわる情報を発信する。 | 学年会の協力、推進員との連携を得て生徒情報の共有を進めることができた。心の健康に関わる生徒への発信にも配慮していきたい。 |
| 音楽 | 基本的な生活習慣を身につけるとともに、豊かな情操を育む。 | <ul style="list-style-type: none"> 周囲への思いやりが出来るように指導する。 音楽以外の芸術にも興味関心が持てるように指導する。 | 音楽活動だけでなく、日常生活においても、自ら考えて行動することを実践出来る生徒も増えてきた。継続して指導していきたい。 |

| 項目 (担当) | 重点目標 | 具体的方策 | 評価結果と課題 |
|------------|-----------------------------|---|--|
| 1年 | 学習習慣の確立と社会性の涵養 | ・時間を有効に使い、学習と課外活動の両立を図る。 ・挨拶、環境美化の徹底と他者を思いやる行動がとれるように指導する。 | 学習面・部活動・学校行事について限られた時間の中でよく努力した。社会性の涵養として、挨拶、環境美化については今後も引き続き強く指導していきたい。 |
| 2年 | 学校の中核を成す学年として、何事にも積極的に取り組む。 | 学習、進路、修学旅行、学校祭、部活動等の学校生活において生徒が積極的に取り組めるよう、指導・助言する。 | 学校行事、部活動などについては、中心学年としての成長が見られた。類型登録以後、進路実現の為に学習に対する取組も改善されてきた。高い進路目標に挑戦できるよう更に意識を高めたい。 |
| 3年 | 生徒の進路実現を図る。 | 生徒の進路希望・学習状況の情報を学年会で共有し、生徒の在り方や特性を十分考慮した適切な進路指導と学習指導を積極的に展開する。 | 学年会を中心に生徒の進路希望・学習状況の情報を共有し、文理及び生徒の特性を生かした進路指導と学習指導を実施することができた。また、生徒については、授業を始めとして、学校行事、学力補充、模擬試験等にも積極的に参加し、3年生としての自覚が備わった。卒業・進学後もあらゆる場面において、さらなる成長・活躍を期待したい。 |
| 総合評価 | | 生徒が自ら進んで専門分野に精通するように、様々な分掌・学年で具体的な工夫・改善策を実施した。また、社会人としてのモラルが身に付くように、学校全体で意識して取り組むことができた。今後もSSH事業を活用するなどして、目標の実現に努力していきたい。 | |

イ 学校関係者評価結果等

| | |
|-------------------------------------|--|
| 学校関係者評価を実施した 主な評価項目 | ・専門分野に精通する人材を育てることができたか。 ・社会人としてのモラルを身に付け、実践できるようにすることができたか。 |
| 自己評価結果について | ・新たに取組んだ国際交流（オーストラリア研修）に期待している。 ・学校が取組んでいる毎日の1つ1つの教育活動の積み重ねで、生徒達は成長している。変わらぬ指導をお願いしたい。 |
| 今後の改善方策について | 国際交流では、その成果を学校全体のものとするため、研修に参加した生徒の成果を報告書にまとめる。またその概要版を作成し、全生徒に配布する。さらに、SSH研究発表会において研修概要報告とオーストラリアで行われた優秀プレゼンテーションを発表する。 |
| その他（学校関係者評価委員 から出された主な意見、 要望） | ・国際交流では体験を通して様々なことを学んでほしい。また、日本人として日本の何をアピールするかしっかり準備してほしい。 ・時代は変わっても、根底に流れているものは同じである。今後も良き伝統を継続してほしい。 |
| 学校関係者評価委員会の構成 及び評価時期 | 構成・・・学校評議員4名及びPTA会長・副会長 評価時期・・・3月1日 |